

1 療養介護事業

1) 利用者状況

(1) 入所者 54名 (男26名 女28名)

(2) 年齢別 (最高年齢: 83歳 最低年齢: 18歳 平均年齢: 45.6歳)

歳	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
男性	1	3	2	7	7	5	2
女性	1	1	6	2	13	4	1
計 (名)	2	4	8	9	20	9	3

(令和5年3月末現在)

(3) 入所者医療度

項目	人数
超重症児	6名
準超重症児	5名
気管切開	3名
胃瘻	10名
経鼻経管栄養	2名

(4) 大島分類

大島分類	人数
1	22名
2	20名
3	1名
4	4名
5	6名
8	1名
9	1名

(5) 1年間の推移

新規入所	2名
転所	0名
死亡	2名

2) 医療

悪性リンパ腫の方と重症肺炎を繰り返した方が永眠され、新たに2名が長期入所された。また、誤嚥性肺炎を繰り返していた方1名が他院で胃瘻を造設した。

全国的な新型コロナウイルス感染症の流行により、5月に1名肺炎で北里大学病院に入院、9月には入所者48名、短期利用者1名が集団感染した。重症化を防ぐために、速やかに抗ウイルス薬を使用、二次的な誤嚥性肺炎を防ぐために輸液管理とした。1名が呼吸不全で東芝林間病院に入院したが、悪化なく速やかに帰園された。感染症の予防のため、施設長による定期的な新型コロナウイルス感染症についての説明があり、職員の意識啓発を図った。尚、インフルエンザウイルス感染症の罹患者はいなかった。

感染症の脅威に対し、インフルエンザワクチン、コロナウイルスワクチンの接種とともに、今年度65歳以上の方6名に肺炎球菌ワクチンを接種した。

また人工呼吸器管理の方が定期的に入所されており、家族の負担軽減を担っている。

### 3) 看護

昨年度同様新型コロナウイルス感染症対策を徹底していたが、9月17日から施設内利用者、職員が発症し、急速に感染拡大がありクラスターとなった。新型コロナウイルス感染症対策の初期にはシミュレーションを実施して対策を考えてきたが、10人部屋であること、個室が少ないこと、換気が十分にできないことなどにより、対応が難しかった。ワクチン接種していなかった利用者1名が重症となり他院に入院したが、比較的早期に回復し退院できた。他の利用者も軽快し、10月12日コロナ終息となった。10月13日からは通常の生活に戻り、対面面会も再開した。

職員の感染対策を強化し、N95マスクの着用と、検温の回数を2回にし、勤務途中にも体調確認を行った。

1月中旬に新棟への引越が予定されていたので、利用者の体調変化に注意し観察を行った。移動後も体調を崩す利用者はなく、新棟の生活にスムーズに移行することができた。

誤嚥性肺炎を繰り返していた利用者1名が胃瘻造設となった。

他院受診は、コロナ禍で制限があり、また入院すると面会制限もあり、退院まで利用者の状態が把握できない状況があったが、家族に連絡して情報を得たり、医師からの情報を共有したりするなど、その後の看護に活かせるよう努力した。

前々年度から進めているACP（アドバンスケアプラン）については、勉強会を継続して知識の習得に努めた。悪性リンパ腫と診断され自然経過となった1名が5月に看取りとなった。

この経験を活かし、今後もACPに積極的に取り組んでいく。

今年度も、相模原市重症心身障害児者・医療的ケア時等看護研修事業はWEBでの開催となった。日本重症心身障害福祉協会認定の看護師が、講師として活躍できる場となった。

看護協会の研修生を受け入れ、可能な範囲で重心看護の実際を伝えられるよう努めた。

### 4) 生活支援

今年度は新棟への移行に向け、利用者の環境の変化に対応に主軸をおきながら準備に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症対策として居室ごとに行い支援を継続した。

家族の面会については、感染対策を講じながら6月に対面面会を開始、10月からは慰霊塔までの散策へと緩和を行い、家族との触れ合いに喜びの姿が多く見られた。

6月、11月には海外で活躍されている演奏家の方々が来園され、ミュージックシェアリングを開催。楽器の音色を堪能する中で、2年ぶりのイベントに、利用者様から笑顔やリラックスされる様子が見られ心躍る時間となった。

保護者会からは夏のお楽しみとして、マッサージクリームと飲料、クリスマスにはケーキをいただき、各季節に応じたひとときを楽しむことができた。

活動に関しては、感染対策を行いながら、様々な活動に取り組んだ。カーハイクでは近隣の公園に外出し、散策や外気に触れ気分転換を図った。お土産にスイーツを購入し、帰園後の楽しみとした。

9月には新型コロナウイルス感染症の蔓延によりクラスターが発生したが、1ヶ月後には終息を迎えた。1月には新棟へ引越しを行い、利用者様の心身の変化に留意しながら支援を継続した。

研修に関しては、2名の職員が県内1施設への現場研修に参加し、得た情報を新棟の住環境、新たな体制構築に向けて活かした。また5名の職員がオンラインを中心とした研修や調整会のメンバーが主体となり、安全研修を全職員へ行い、各人が自身の支援技術を深めることができた。

人材育成に関しては感染予防を徹底し3校、計3名の保育実習を受け入れた。

【 令和4年度 年間活動内容 】

活 動			カーハイク		
月	内容	行事・小行事 外出	所在地	外出先	体験活動
4	Happyday「春探しの旅」 Happyday「外気浴&足浴」 Happyday「リラクゼーションマッサージ」 戸外活動「お花見」				
5	買い物 散歩 Happyday「足浴」 外気浴&手足浴				
6	散歩 ムーブメント「梅雨入りの小川にて」 ムーブメント「梅雨を感じよう」 気切を満喫しよう(映像鑑賞) Happyday「にじみ絵」 氷の足浴 Happyday「宝探しゲーム」	アイスの日 ミュージックシェアリング	相模原市 相模原市	ギオンスタジアム 小川フェニックス	ドライブ・散策 ドライブ・おやつ
7	Happyday「バランスボール」 オイルマッサージ スヌーズレン「梅雨」 ポッチャ 足浴 リラクゼーション Happyday「ポッチャ」 Happyday「水遊び」 リンパマッサージ	七夕 夏祭り「星空を見に行こう」	相模原市 町田市	小川フェニックス 麻溝公園 鶴間公園	ドライブ・おやつ ドライブ・おやつ
8	ゴーヤ、モロヘイヤの収穫 夏祭り「金魚すくい、花火大会」 Happyday「収穫祭」 感覚刺激「涼を求めて」 バランスボールで身体を伸ばそう Happyday「エアートランポリン」 Happyday「盆踊り」				
9	Happyday「プラネタリウム」 ムーブメント「秋の散策」 Happyday「ポッチャ」 Happyday「絵本の読み聞かせ」		町田市 町田市	鶴間公園 町田ダリア園	ドライブ ドライブ
10	Happyday「散歩」 Happyday「初めてのおつかい」 Happyday「散歩」 Happyday「リラクゼーション・足浴」	風っ子展見学 (女子美術大学 相模原キャンパス)	町田市 相模原市 相模原市	町田薬師池公園 四季彩の杜 西園 麻溝公園競技場周辺 県立相模原公園	ドライブ ドライブ ドライブ・おやつ
11	Happyday「商店街散策」 戸外活動「園周辺散策」 Happyday「キャンドルライトでマッサージ」 戸外活動「園周辺散策で五感を刺激」	ミュージックシェアリング	相模原市	麻溝公園	園外活動
12	Happyday「外気浴&おやつタイム」 サッカーゲーム	クリスマス会			
1	Happyday「フリーキック対決」 *新棟引っ越しに伴い、活動休止	お正月お楽しみ			
2	*新棟引っ越しに伴い、活動休止				
3	戸外活動「園周辺」 戸外活動「慰霊塔で花見」 制作「桜」 戸外活動「ひな祭り散歩」				

## 5) 薬局

令年度は常勤薬剤師 1 名、非常勤薬剤師 1 名（常勤換算 0.3 人）で業務を行った。院内処方箋、外来処方箋の正確な調剤、院外処方箋の監査、医薬品・消毒剤等の適切な在庫管理を行い、医薬品に関する様々な情報を施設内へ伝達した。病棟業務として定時処方箋の準備、配薬カートへの定時薬充填、注射剤の個人別セット、病棟配置薬の管理など医薬品に関わる業務全般を行った。後発医薬品の出荷調整が続き、処方された医薬品の剤型変更等を数品目実施した。

薬事委員会、医療安全委員会、感染対策委員会、褥瘡対策委員会、栄養管理委員会、ケース会議に参加、他職種と連携し、チーム医療に貢献した。新規医薬品使用時は、その副作用等注意事項を利用者に係る職員に伝達した。医薬品に関する情報伝達媒体「DI ニュース」の発行を 2 か月に 1 回行った。全職員対象の「医薬品安全管理のための研修会」をポスター型式で実施、院内外の研修・オンライン説明会等に積極的に参加し、専門的知識の向上に努めた。

< 処方箋発行数 > (令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月) (単位：枚)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
定時	52	53	53	53	54	80	54	53	54	53	54	81	694
臨時	199	146	181	134	160	258	159	154	166	183	163	192	2095
外来	5	7	5	4	3	3	4	3	8	9	6	6	83
注射	19	17	13	8	17	47	31	22	7	13	14	12	220

## 6) リハビリテーション

理学療法士 (PT) 常勤 4 名 (内 1 名、6 月から産休)、作業療法士 (OT) 非常勤 2 名で、利用者個々の必要性に応じて理学療法と作業療法を実施した。リハビリテーション実施人数は延べ 3,068 人 (前年同期間比 809 人減)、実施単位数は 4,137 単位 (1,729 単位減) であった。実施人数と実施単位数の減少は、スタッフの産育休取得、新型コロナウイルス感染によるスタッフの休業、施設内クラスター発生によるリハビリテーション業務停止が影響している。

入所主担当 PT 3 名が中心となり、呼吸介助や排痰が必要な利用者に対する毎朝のカフアシスト、腹臥位による呼吸ケアと姿勢ケアを実施した。各グループのケース会議の中でリハビリテーションカンファレンスを実施した。入所利用者の補装具については月 2 回水曜日に車いす・座位保持装置・下肢装具の定期的な修理・作製を行った。作製件数は車いす作製 4 件であった。

## 7) 栄養

4 月から 6 月は非常勤職員欠員のため厨房業務を 1 日 4 名から 3 名にして勤務時間も変更した。食器は使い捨て食器を使用しカット野菜も取り入れ、献立を一部変更して食事提供を行った。

調理師考案メニューは 4 回実施し、その内 1 回はデザートを選択メニューを行った。開催日のお知らせはポスターを作成し掲示した。

夏祭りでは夜空を連想させる食事を、クリスマス会では「カラフル」というリクエストに

応え、普通食もミキサー食も彩り豊かな楽しい食事を提供した。

栄養管理委員会では水分摂取量の見直し、食事構成を変更するための栄養補助食品の選定、食事箋の変更、新規栄養量への切り替えの検討を行った。

摂食評価会議では、利用者の定例摂食評価の3巡目が終了した。



## 2 短期入所事業

### 1) 利用者状況

#### (1) 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	11	11	15	9	15	10	12	17	8	4	8	15	135(名)
延日数	70	65	96	75	101	90	87	123	52	33	64	105	961(日)

#### (2) 利用者年齢別

年齢	人数		
児童	2歳未満	0名	計8名
	2～6歳	0名	
	7～17歳	8名	
成人	18～19歳	4名	30名
	20歳以上	26名	

#### (3) 重症度スコアに基づく準・超重症児者数

スコア	人数	
超重症児 (25以上)	18歳未満	1名
	18歳以上	2名
準超重症児 (10以上)	18歳未満	1名
	18歳以上	3名
医療的ケア	18歳未満	2名
	18歳以上	5名

8月から9月まで緊急措置の受け入れを行った

9月は、施設内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、入所の1名が陽性となった。長期入所者と同様、治療を行い重症化せずに帰宅する事ができた。

2) 医療・看護・生活支援

感染対策は、状況に応じて検討し、2日前に実施していたPCR検査を6月から前日に変更した。1月に新棟への引っ越しがあり、引っ越し後2週間は受け入れを止めたが、2月から再開した。短期入所の為の個室を用意しているので、手続き後に見学して環境を確認していただくことができ「広くてきれい」と喜びの声が聴かれている。

コロナ渦でのレスパイトのニーズや家族の状況での急な入所のニーズもあり、空床を利用して可能な限り受け入れが出来るよう努めた。

3) 薬局

入所時面談に同席し、短期入所者の持参薬を鑑別し、安全な服薬管理に努めた。

<持参薬鑑別件数> (令和4年4月～令和5年3月)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	7	7	9	7	14	14	12	13	9	5	12	15	124

4) 栄養

医師の食事箋に基づき食事を提供した。

アレルギーがある利用者には、個別に献立を作成し代替の食事提供を行った。

水分補給でゼリーを喫食している方用に、必要量のゼリーを作り提供した。

3 生活介護事業

1) 利用者状況

(1) 登録 18名 (男 6名 女 12名)

(2) 年齢別 (最高年齢：41歳 最低年齢：19歳 平均年齢：25歳)

歳	18～20	21～30	31～40	41～50
男性	1	3	2	0
女性	2	8	2	0
計(名)	3	11	4	0

(3) 利用者医療度

項目	人数
超重症児	3名
準超重症児	3名
気管切開	3名
胃瘻	5名
経鼻経管	2名

(4) 大島分類

大島分類	人数
1	13名
2	1名
3	1名
4	3名
5	0名
7	0名

## (2) 事業実施状況

登録数	利用人数	1日平均	送迎	給食	入浴	医療的ケア	新規	解約
18名	899名	4名	1,659名	650件	384件	9名	2名	0名

## (3) 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	84	77	93	79	57	48	66	77	76	76	78	88	899(名)

今年度は4月から新規利用者2名が加わり、利用者数17名（利用登録者18名）でスタートした。

前年度同様、新型コロナウイルス感染症への対策を取りながら事業を行ったが、施設内でクラスターが発生したことにより、9月20日～10月10日は休業した。また、利用者が新型コロナウイルス感染や濃厚接触者となるなどコロナ禍の影響で、日々の利用人数の減少もあった。

## 4) 事業内容

日中活動では、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、季節に応じた活動を通して、小集団で共に充実した時間を過ごせるよう環境構成に意識や配慮をしながら取り組んだ。今年度は支援員が2名とも異動して担当となったことから、年度当初は利用者との関係性を築くことを大切に考えた。支援を行って行く中で、利用者の楽しむ表情やリラックスしている様子を見ることができ、少集団である事を活かした支援を提供することができた。

個別支援計画では、ニーズに基づき支援計画を作成し実施した。日々の支援を通し、利用者の変化への気付きや視点の置き方等、実施や振り返りを重ねながら、より充実した支援に取り組んだ。

今年度も引き続き、神奈川県立相模原中央支援学校から2名の実習受け入れを行い、次年度1名の新規利用者へつながった。

## 4 外来診療

### 1) 医療

外来は施設長と非常勤の小児科医2名、北里大学病院精神神経科医師の計4名でおこなっている。新型コロナウイルス感染症の感染対策に十分に配慮し、入館時の検温、健康チェックを徹底し、待合室で密にならないように工夫をし、来院できない場合は電話再診をおこなった。今年度の外来受診者数は延べ4,280名（前年度4,330名）で初診は80名（前年度89名）でそのうちの発達障害の患者は76名（前年度77名）であった。

### 2) リハビリテーション

理学療法士常勤3名、作業療法士非常勤2名、言語聴覚士非常勤1名の体制で行った。また臨床心理士（公認心理師）2名による心理検査を月2回実施している。

外来患者の実施人数は延べ2,011名（前年度比93名減少）、実施単位数は5,736単位（545単位減少）であった。リハビリテーション新規患者数はPT17名、OT32名、ST7名であっ

た。理学療法延べ患者数 1,133 名（77 名減少）、実施単位数 3,302 単位（318 単位減少）、作業療法延べ患者数 742 名（18 名減少）、実施単位数 2,172 単位（100 単位減少）、言語聴覚療法延べ患者数 136 名（5 名増加）、実施単位数 262 単位（121 単位減少）、発達検査の内訳は WISC-IV 知能検査 24 件実施（4 件増加）、田中・ビネー知能検査 V7 件実施（増減なし）であった。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染リスク低減対策を実施し外来担当スタッフを曜日担当制とした。実施人数と実施単位数の減少は、スタッフの産育休取得、コロナ関連のスタッフの休業、クラスター発生時のリハビリテーション業務停止、感染対策としての外来枠数の削減が影響している。

PT・OT・ST 個別療法実績（前年度増減）

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法	合計	前年比
延べ患者数	6 歳未満	159 -37	368 -21	38 -8	565 -66	89.54%
	6 歳以上 18 歳未満	505 -122	364 -7	98 13	967 -119	89.04%
	18 歳以上	469 82	10 10	0 0	479 92	123.77%
	合計	1,133 -77	742 -18	136 5	2,011 -93	95.58%
単位数	6 歳未満	480 -104	1,090 -78	87 -48	1,657 -230	87.81%
	6 歳以上 18 歳未満	1,502 -383	1,068 -33	175 -73	2,745 -498	84.64%
	18 歳以上	1,320 169	14 14	0 0	1,334 183	115.90%
	合計	3,302 -318	2,172 -100	262 -121	5,736 -545	91.32%

3) バンビとの連携

児童発達支援センターバンビと連携し、バンビ利用児の外来診察を行っている。

また、施設長が月 1 回バンビを訪問し、バンビに通っている保護者を対象に、「育児相談」を行った。

リハスタッフがバンビを訪問し、バンビスタッフへの助言と利用児童の状況確認を行っている。OT は年 7 回訪問し、延べ 59 名の児童に対応した。PT は 3 回訪問し延べ 23 名の児童に対応した。バン療会議は Zoom を使用したオンライン会議とし、令和 4 年 6 月と令和 5 年 3 月に実施した。



#### 4) 外来ケース会議の開催

月1回の外来ケース会議を実施した。主にバンビに通っている子どもについて、外来医師、外来看護師、リハスタッフが患者情報の共有を行った。

#### 5 地域連携

##### 1) リハビリテーション 実習生受け入れ

月	期間	実習名	学校・学部名	人数
6～7月	7週間	4年次 臨床実習 II	信州大学医学部保健学科 理学療法学専攻 4年	1名
1月	1週間	2年次 臨床実習	北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 2年	1名

##### 2) 理学療法士による神奈川県立相模原中央支援学校訪問

平成23年より学校側からの求めに応じ、理学療法士2名が神奈川県立中央支援学校を訪問し、児童・生徒の姿勢管理などについて専門的な立場から教師に助言を行っている。今年度は6月、10月、1月の3回の訪問を予定し6月と1月に実施した。10月は施設内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し訪問を中止した。合計13名の児童について対応した。

##### 3) 生活支援課 実習生受け入れ

月	期間	実習名	学校・学部名	人数
8月	12日間	3年次 保育実習 I	桜美林大学 健康福祉学部 保育専修	1名
1月	12日間	3年次 保育実習 I	アルファ医療福祉専門学校 こども保育学科	1名
3月	12日間	3年次 保育実習 I	相模女子大学 学芸部子ども教育学科	1名

##### 4) 聖徳大学心理学部学生の研修受け入れ

公認心理師をめざす学生1名を受け入れ、施設長が中心になって、発達外来や心理検査の陪席、バンビの見学やバンビでの臨床心理士による心理相談の陪席をおこなった。

以下、5)～10)については、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として実施なし。

##### 5) さがおい（地域における公益的な取り組み）

##### 6) 医学部学生実習受け入れ

##### 7) 看護学生実習受け入れ

##### 8) つくしんぼまつり

##### 9) にこにこ作品展

10) 相模原療育園公開講座

11) 相模原市重症心身障害児(者)看護研修事業

相模原市からの委託を受け、令和4年度相模原市重症心身障害児者・医療的ケア児等看護研修事業を実施した。今年度は、医療に関する講義を1講座増やし、専門性の高みを目指すとともに、対面による集合研修を再開し、実習を通して実技の習得を図ることができた。

最終日には「重症心身障害児者・医療的ケア児等を地域で支えるために—相模原市の現状と課題—」をテーマとし、相模原市内での取り組みを中心とした講演、事例発表を行った。

	月 日	内 容	講 師	参加人数
1	12月 3日 9:30～ 11:00	講義(オンライン) 気管切開の管理	北里大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教 大原 卓哉 氏	63名
2	12月 3日 11:00～ 12:30	講義(オンライン) てんかんを学ぼう	相模原療育園 施設長 細田 のぞみ	63名
3	12月 17日 13:00～ 14:30	講義(オンライン) 脳性麻痺患者に対する整形外科的 治療の紹介	北里大学医学部 整形外科学 診療講師 岩瀬 大 氏	58名
4	12月 17日 14:30～ 16:00	講義(オンライン) 消化管のはなし 《胃瘻》《消化・栄養・排泄》	相模原療育園 医師 武田 憲子	57名
5	1月 18日 9:00～ 10:30	講義(集合/対面)・実習(実技) 重症心身障害児(者)の呼吸ケア ～呼吸障害の理解と対策～	相模原療育園 理学療法士 樋口 滋 理学療法士 深澤宏昭	22名 (定員20名)
6	1月 18日 10:30～ 12:00	講義(集合/対面)・実習(実技) 重症心身障害児者等の看護	相模原療育園 日本重症心身障害福祉協会 認定看護師 上津 和洋他	22名 (定員20名)
	2月 25日 10:00～ 12:30	テーマ「重症心身障害児者・医療的ケア児等を地域で支えるために —相模原市の現状と課題—」  講 演 (オンライン) 小児在宅支援病棟「あすばら」の 現状と課題	(講師) 北里大学医学部小児科 北里病院周産母子成育 医療センター 小児在宅部門長 野々田 豊 氏 (座長) 相模原療育園 施設長 細田 のぞみ	

7	<p>事例発表（オンライン）</p> <p>① 重症心身障害児者・医療的ケア児等を地域で支えるために —相模原市の現状と課題—</p> <p>② 児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護 ～見守り続け、寄り添った支援を～</p> <p>③相模原市医療的ケア時等コーディネーター実践報告</p>	<p>（発表者）</p> <p>北里大学病院トータルサポートセンター 看護師 佐藤 明子 氏</p> <p>NPO 法人はる 理事長 新田 文恵 氏</p> <p>相模原市医療的ケア児等コーディネーター 田極 恵 氏 加藤 俊雄 氏 （座長） 相模原療育園 看護・生活支援部長 田口 真奈美</p>	92 名
---	--	---	------

## 6 施設管理等

増築棟で使用する設備等を購入した。

- ・機械式浴槽⇒従来型 1 基と併せて、医療依存度の高い利用者用にシャワー浴槽 1 基を導入した。導入に当たっては、社会福祉法人清水基金の制度を活用した（900 万円の助成）。
- ・汚物除去機⇒従来、職員が行っていた、汚染した衣類の予洗い（手作業）を全自動化することにより、直接処遇等、利用者へのサービス向上を図った。
- ・個人用収納⇒保護者等からの要望が高かった、利用者ごとの生活用品収納キャビネットを導入した。

## 7 その他

### 1) 職員研修

開催日	担 当	テーマ	出席人数
6 月 14 日	感染対策委員会	感染対策について	29 名
6 月 14 日	リスクマネージャー会議	インシデント報告をなぜ書くの？	29 名
12 月 5 日	医療安全・感染対策研修会	新型コロナウイルス感染症クラスターを振り返って	34 名

### 2) 施設内研修

開催日	講 師	テーマ	参加人数
2 月 13 日	桜美林大学 健康福祉学群准教授 谷内孝行 氏	障害者虐待について	40 名

### 3) 園内実践報告会

開催日	演題名（発表者）	参加者数
3月7日	1. 穏やかな日常を目指して 2. 意思決定支援の実践 3. 当施設における車椅子・座位保持装置の現状報告 4. I氏の陰臀部皮膚トラブルの対応 5. 終末期の他職種協働によるチームケアの実践 6. 講演 福祉サービスにおける重要事項説明書について 7. TENA マイスター表彰	39名

### 4) 学会発表

発表者名 (共同演者含む)	演題名	学会名・場所・日程
木村 優希	重症心身障がい児者入所施設において意思決定支援として ADOC を試用し理学療法の目標設定を行った一症例	第 9 回日本小児理学療法学会学術大会 WEB 開催 2022 年 11 月 12 日
武田憲子 小川泰子 細田のぞみ	間欠的(サイクリック)TPN で延命した腸管不全の重症心身障害者の例 -幸せの時間-	第 47 回日本重症心身障害学会学術集会 東京 12 月 1 日
木村 優希	成人脳性麻痺患者における食事介助時のオーラルコントロールの効果検証 -シングルケーススタディー-	第 39 回神奈川県理学療法士学会 WEB 開催 2023 年 2 月 5 日
深澤 宏昭	靴型装具の使用により易転倒性が改善した脳性麻痺児の一例 -粗大運動能力と COPM の変化-	第 39 回神奈川県理学療法士学会 WEB 開催 2023 年 2 月 5 日

### 5) 座長

座長名	講演名	協議会名・場所・日程
細田のぞみ	医療型障害児入所施設および療養介護施設における意思決定支援	東日本施設協議会 2022 年 11 月 11 日

### 6) 著作

楠本 泰士, 木村 優希, 他: 痙直型脳性麻痺患者における座位 Index of Postural Stability の信頼性と妥当性. 小児理学療法学. 2023; 1: 18-27.

6) 講演会・講習会（「月」「講演者名」「講演・講習会名」「場所」の順に記載）

月	講演者名	講演・講習会名	場所
4月	細田のぞみ	特別支援教育と医療① 発達障害 概論	玉川大学大学院 (WEB)
5月	武田 憲子	疾病・治療論各論V 小児の代表的疾患②：免疫・アレルギー疾患、感染症、④：消化器疾患 ⑥：腎・泌尿器疾患、神経疾患、運動器・骨格器疾患 ⑦：皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患	群馬医療福祉大学 看護学部
6月	細田のぞみ	特別支援教育と医療② 発達障害 各論 ASD	玉川大学大学院 (WEB)
6月	細田のぞみ	特別支援教育と医療③ 発達障害 各論 ADHD	玉川大学大学院 (WEB)
6月	深澤 宏昭	チャレンジドチアインストラクター講習会 ・チャレンジドチア・パラチアの実践にあたり、 知っておきたい障害のこと ・子どもが抱える運動の不器用を知る	スピッツェンパフォーマンス コンディショニング センター (WEB 開催)
7月	細田のぞみ	相模原市保育者キャリアアップ研修 障害のある子どもの理解	市民会館 (WEB)
8月	細田のぞみ	相模原市保育者キャリアアップ研修 小児の発育・発達の理解と個別的是配慮を必要 とする子どもへの対応	市民会館 (WEB)
8月	樋口 滋	令和4年度特別支援教育研修講座3 重度・重複障害児の呼吸と姿勢	神奈川県立総合教育センター
9月	細田のぞみ 野々田豊	2022年度 医療的ケア支援者研修会 医師の立場から考えるライフステージにおける支援	神奈川県 ユーチューブ配信
10月	細田のぞみ	北里大学医学部3年生 障害児医療と教育	北里大学医学部
11月	細田のぞみ	令和4年度神奈川県立総合教育センター助言会議 変化の激しい時代をたくましく生きる力を育む子どもたちの未来を見据えた新しい時代を切り開く 教育のあり方について	神奈川県立総合教育センター (WEB)
11月	樋口 滋	支援技術向上研修 (介護) 身体メカニズム、介助の方法、ポジショニング	相模原市立障害者支援センター 松が丘園
11月	深澤 宏昭	第9回日本小児理学療法学会 臨床セミナー 「神経発達障がい群 (発達障がい) 児の臨床介入」	WEB 開催
12月	樋口 滋	支援技術向上研修 (介護) 呼吸と呼吸障害	相模原市立障害者支援センター 松が丘園
1月	細田のぞみ	令和4年度 教育相談スーパーバイズによる事例	神奈川県立総合教育センター

		検討会	ター (WEB)
1 月	樋口 滋	相模原市職員研修会 「重症心身障害児の福祉用具」について	相模原市立陽光園
2 月	木村 優希	2022 年度日本小児理学療法学会カンファレンス 「小児理学療法で行われるべき症例検討」 シンポジウム「脳性麻痺高齢者の症例検討」担当	WEB 開催

7) 研修・講演会参加

開催月	研修名	実施主体	参加者
4 月	第 21 回子供の福祉用具展 キッズフェスタ 2022	S.P.ビームス株式会社	理学療法士
11 月	令和 4 年度全国重症心身障害児施設職員 研修会「医療技術管理コース」(web 開催)	公益社団法人 日本重症心身障害福祉協 会	薬剤師 理学療法士
11 月	第 9 回日本小児理学療法学会学術集会	日本小児理学療法学会	理学療法士
2 月	第 39 回神奈川県理学療法士学会	公益社団法人 神奈川県理学療法士協会	理学療法士
3 月	日本発達系作業療法学会 第 11 回学術大会	日本発達系作業療法学会	作業療法士